

第2回 駿河海岸漂砂管理計画検討委員会

議事要旨

1 日時および場所

日時：平成15年7月29日（火）

13：15～16：30

場所：ホテルセンチュリー静岡 センチュリールーム

2 議事次第

- 1) 開会
- 2) 主催者挨拶
- 3) 委員長挨拶
- 4) 議事

第1回委員会議事等について

(ア) 第1回議事要旨

(イ) 検討フロー

(ウ) 駿河海岸施設計画に関する経緯

越波区間における緊急対策について

試験突堤下手の侵食対策について

モニタリング計画について

海浜変形モデルについて

その他

- 5) 閉会

3 第1回委員会議事等について

(1) 検討フローに対する意見等

- 第4回委員会検討事項において、「大規模突堤計画の施工案」とあるが、これは委員会において代替案を含めて議論を予定しているため、検討事項としては「漂砂管理計画の実施案」とすること。
- 本委員会での検討は、大井川からの供給土砂の左右岸への割り振りを踏まえた上で左岸側を重点的に議論するものであり、検討フローについてもこの主旨が解るように修正すること。
- 本委員会のアウトプットとして、侵食に対して砂浜を復元（回復）させるために沖合波浪制御施設とソフト対策の組合せ方法について盛り込むことを考慮する。

(2) 駿河海岸施設計画に関する経緯に対する意見等

- 漂砂管理計画の策定を行うにあたっては、汀線際の土砂の質を含めた（海岸の粗粒化を含めて）整理を行い、質を含めた海浜の管理を前提とした議論が必要である。

4 越波区間（藤守川～栃山川）における緊急対策

(1) 説明内容

駿河海岸における越波浸水被害の経緯
越波対策の必要性
越波対策の検討
当面の対策方法の検討

(2) 説明内容に対する意見等

- 越波区間の緊急対策として離岸堤の整備を今年度から行うが、離岸堤の設置に際して下記について注意する必要がある。
 - 沿岸漂砂捕捉による離岸堤下手側海浜の侵食の助長
 - 離岸堤の法先洗掘による沈下
- 上記 について、下手海浜への影響を低減するために離岸堤が捕捉する分について、人工的な補給について配慮する。
- 離岸堤設置後について、当面は既設の消波堤は残して施工する。

5 試験突堤下手の侵食対策

(1) 説明内容

試験突堤下手における侵食と越波被災
越波被災原因の整理
試験突堤局所洗掘箇所の対策案

(2) 説明内容に対する意見等

- 試験突堤の下手側越波の原因については、波向き、周期によっては、突堤前面の海底地形の影響で波浪が収斂する場所であるため、この影響を考慮したうえで、再度検討して確認する。
- 既設のコンクリート壁の影響については、越波の原因を整理した上で検討する。
- 試験突堤下手の越波対策として、越波の発生しない目標とする断面形状を設定し、それ以上に侵食、洗掘が起こらないように監視していく対応が必要である。
- 上記対策の目標断面について、養浜工にて行うものとするが、養浜だけでは目標断面が維持できない場合、補助的施設（消波堤等）を検討する。

6 モニタリング計画

(1) 説明内容

波浪観測

養浜過程調査

大井川河口地形変化調査

(2) 検討内容に対する意見等

- 海底面に散乱する着色材料の分布状況を把握することが重要と考えられる。確認方法として、ビデオ撮影を行い分布状況を画像解析により把握することも考えられる。
- 着色材料の追跡は、代表的な測線で水深の変化による砂礫それぞれの厚さの変化や構成材料の変化を追跡することも考えられる。
- 現地調査の補助として、海底谷周辺の波の状況については国総研に実験模型があるので、活用について考慮する。

7 海浜変形モデル

(1) 説明内容

海浜変形モデル構築のための基本条件の整理

土砂移動量の推定

汀線変化予測

(2) 検討内容に対する意見等

- 海浜変形モデルは、今後の適正なサンドバイパスを実施するために、サンドバイパスの効果を外部の人にも客観的に説明できるようなモデル構築を考えること。
- 基本的なモデルで検討を行った後、水深で分けた等深線的な扱いや砂と礫の管理を別に取り扱えるようなモデルの検討も考えること。